知的障害者施設
いみず苑広報誌
とねりこ

－ 発 行 －
社会福祉法人 射水福祉会
い み ず 苑
いみず苑保護者会

〒933-0252 富山県射水市七美727
TEL（0766）86－1126
FAX（0766）86－1136
http://www.imizuen.jp/

話し合い、共有する学びが、チームの成長に!

学び、考え、ともに実践していくために

援護第一課　主任　眞田章太郎

今年度の研修委員会では、新採職員を対象とした対話形式の「勉強会」も企画し、取り組んでいます。教える立場と教わる立場の講義形式ではなく、新採職員・中堅職員が共に話し合い、討論する中で、疑問点や課題となるものを整理することを目指しています。

対話形式にした理由は二つあります。一つ目は「考える力を育む」ことです。利用者支援は、正解が無いと常々感じています。日々、心も体も変化する利用者への支援は、支援者一人ひとりが利用者に向き合い、学び、そして考えながら対応していく力が求められます。私自身も新採の頃は、先輩方から様々な事を教わりながらも、利用者の日々の変化に悩みながら支援をしてきた記憶があります。求められるのは考えたことを実践する力だと思います。考える力を育むためにも、今回の勉強会では、新人職員が悩んでいることや課題と思っていることをそれぞれ話してもらいながら、皆で課題解決に向けて考えていく内容としました。

二つ目は、「チームで課題に向き合う力を養う」ことです。利用者への支援は、職員一人だけが専門性を高め、頑張って成り立つものではありません。チーム全体で取り組む必要があると感じます。そのためには課題を共有し、チーム全体の支援力とチームワークの底上げが必要であると感じています。具体的な支援の場では、「利用者とどのように関係を築いてきたか?」という壁に突き当たります。答えを提示するのではなく、意見を出し合いながら、「どうすればよい関係性を築けるか」という課題を皆で考えることの大切さも学びます。

近年、利用者の高齢化・重度化は大きな課題となっています。また、障害者の権利擁護や多様性の尊重などが叫ばれています。これらの課題に向き合っていくためにも、若手もベテランも互いを認めあえる環境をつくり、チームを成長させていくことが大切だと感じています。これからも仲間で学びを深めていこうと思います。

「とねりこ」かつて射水平野の水田の畦道に植えられていたこの木は、湿地を好み強い風にも倒れないことから、刈り取った稲を干す稲架（はさぎ）に利用されていました。

★レクリエーション大会・昼食会・グループホーム懇親会（NHK歳末たすけあい助成）★

レクリエーション大会 12月8日（水）～15日（水）

コロナ禍において、なかなか行事ができない中で、「どうしたら利用者の皆さんに安心して楽しんでもらえるか」を考えました。
レクリエーションに関しては、世界に1つだけのオリジナルのゲームや手作りのメダルや賞状などの準備をして、利用者のさんの好みに合わせたものや達成感を感じられる内容にしました。またクリスマスも近いということで、サンタさんが登場するサプライズもあり、季節感も大切にしました。
安心して行えるように、それぞれの作業班ごとにレクリエーションを行ったり、手指消毒を徹底したりする等の感染症対策も行いました。

クリスマスわなげやパフェづくり
「かがやき、はばたき」

フライングディスク
「通所センターさんが」

カラオケ大会
「入所棟」

的あてゲーム
「きらめき」

ボーリングやおやつ
「ひだまり」

ボール投げ
「ひびき愛」

クリスマスツリーづくり
「なごみ」

昼　食　会

12月14日（火）

食事は感染症予防のため、
5か所に分けて行いました。

中央ホール

かがやき食堂

さんが食堂

グループホームde 楽しいひと時

食事やコスプレ、飾りつけもしました★

やんばいはうす片口

グループホーム七美

きずな

新成人を祝う会

祝成人

今年は新たに３名の方が成人を迎えられました。
おめでとうございます。

令和４年1月12日（水）、「新成人を祝う会」が開催されました。３密を避けるため、全員が集まることはできませんでしたが、所属する活動班の仲間たちが集う中、各事業所からのメッセージビデオや職員のステージなどでお祝いをしました。会場にはたくさんの笑顔があふれ、とてもあたたかい空間となりました。

～これから訪れる未来が、明るく幸多きものとなりますように～

保護者のつどい

「妙なこだわり」

国谷　恵

新型コロナウイルス感染症が、私たちの当たり前だった日常を激変させてから随分経ちますが、こうして毎日いみず苑に通所できるようになり、いみず苑の皆様には本当に感謝しております。

息子の直也がお世話になったのは、小学校低学年の頃だったと思います。その頃からすばしっこく、高い所へ登ったり、走ったりして、つかまえるのが大変でした。子どもの頃からお世話になっていた事もあり、支援学校を卒業していみず苑へ通所する事になったのも本人にとって自然なことで、すぐ馴染んでいたと思います。成人して二十四歳になった今は、さすがに高い所へ登ったりする事はありませんが、妙なこだわりはあります。休日は天気が良ければ公園へ散歩していますが、スピードが速くて、すぐに置いて行かれます。でもここで妙なこだわりが出て、道を曲がる時直角に行かないと嫌で、私はその間に道をショートカットして追いつきます。いみず苑から帰る時は、下駄箱全体をなぜか五回程、手で押し続けてから靴を履き、そこから直進や直角に進みながら車へ向かい、乗車します。なぜそんな行動をとるのか言葉で表現してくれたら、どんなに良いだろうかと思っています。

直也のこの妙なこだわりは、これからも続くと思いますが、できれば、人様に迷惑のかからないものでお願いしたいと思う今日この頃です。またその時は、いみず苑の皆様や先輩保護者の方々のお知恵を拝借しながら、私の手を離れるその日まで過ごしていきたいと思います。

「今、想うこと」

釣　美紀子

朝、送迎バスを見送り、急いで家に帰る日々。慌ただしく家事に追われながらも、息子が帰宅するまでが、幼少期より続く束の間の自由で、少しの休憩の時間となります。

それが、コロナ禍において、突然奪われた時がありました。改めて、この普段の生活が、健康と多くの方々の御支援の元に成り立っている事を再認識し、大変感謝しております。

さて、息子はもう三十歳になりました。激しかった自傷や他害は、ほぼなくなり、少しは落ち着いてきました。しかし、こだわりが増々強くなった感じです。てんかん発作や水中毒にならないか、心配が絶えずあります。

そして、父は少し前に定年退職を迎え、母は数年前から専業主婦で、我が家は第二の人生に突入しました。少しずつ老いを感じる年齢になって来て、不安な事も多々あります。それでも元気な内は、今までのように家族で普段の生活ができればと思っています。（なかなか子離れできません。）

将来の事を考えながら、その生活が健康で穏やかに、一日でも長く続くことを願っています。

12月3日（金）に小杉中学校で「教育と福祉」の講演会を行いました

あいネットいみずが富山国際大学子ども育成学部の村上満教授をお招きして、小杉中学校２年生を対象に、「共生社会をはぐくむ～多様性を尊重し、調和がとれたまちへ～」というテーマで講演をしていただきました。参加した生徒からは、「新しく学んだ知識をこれからの生活に生かしていきたい」、「自分を大切にしていきたい」等の感想があげられました。

編集後記

たくさんの雪が積もり、見渡す限りの銀世界となっていたある日。雪道でスリップし、身動きがとれなくなり、困っていた私に、見ず知らずの方が「大丈夫ですか?」と、スコップを持ってかけつけてくださった。それからは、よいしょよいしょと車の周りの雪をかき分け、力を合わせて車を押し、ついに車が前に進んだ。「ありがとうございます」と伝えると、笑顔で「よかったね」と、手を振って見送っていただいた。

寒さなど吹き飛んでしまうほどに、とても温かい気持ちになった。この気持ちを絶対に忘れないでいよう、そして、困っている人がいたら積極的に手を差し伸べよう、と心に誓った。

（越後　記）

ご寄付・ご寄贈ありがとうございました

- 射水市新湊ボランティア連絡協議会
- （株）デルタインターナショナル
- 水野敏彦
- 田中智浩
- （社）富山県善意銀行
- 富山県野菜出荷組合協議会
- とやまアルペン乳業（株）
- やの園
- 七美花と緑の銀行
- （株）ファーストリテイリング
- 富山県「北日本放送」社会福祉事業基金
- 片口地区社会福祉協議会

（順不同・敬称略）

富山県「北日本放送」社会福祉事業基金様から空気清浄機をいただきました

12月10日（金）の障害者週間展示最終日に花苗、野菜の販売をしました

障害者週間（12月３日～９日）の啓発のため、12月10日（金）に射水市役所でいみず苑の利用者の皆さんが育てた花の苗や野菜の販売を行いました。利用者さんたちの元気よい声かけのおかげもあり、たくさん売りあげることができました。

あいネットいみず

（射水市障害者地域活動支援センター）

あいネットいみずでは、障害（身体・知的・精神）のある方やその関係者の方々の相談に応じ、必要な情報を提供します。

連絡先
あいネットいみず（射水市七美727　いみず苑内）
専用TEL（0766）86－8522　FAX86－8530
Eメール　info@inet-imizu.jp
ホームページ　http://www.inet-imizu.jp